

取付管ライニング

1 取付管ライニング

本 管：φ210 ライニング管
取付管：φ150 陶管にBBG(自立管)を施工



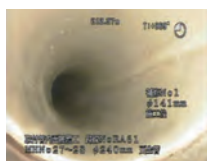
施工前



施工前(取付管内)

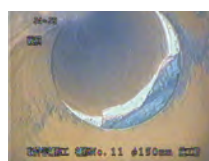


施工後

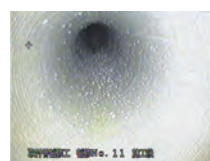


施工後(取付管内)

※その他、取付管内(ジョイント部)
破損時の施工実例



施工前

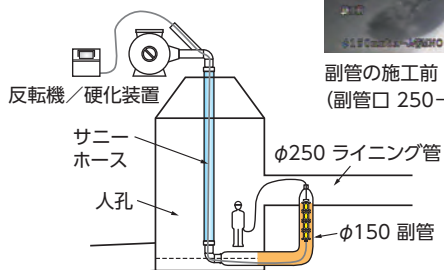


施工後

2 取付管ライニング … 副管のライニングおよび一体型

本管：φ250 ライニング管
副管：φ150 コンクリート管

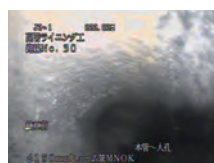
副管更生の施工方法



材料を引き込み挿入後、材料内の通線紐にUVトレインランプを結びつけ、材料末端まで引っ張りあげてから硬化させる。



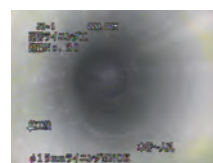
副管の施工前
(副管口 250-150)



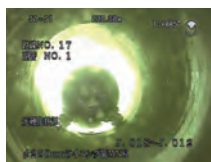
副管の施工前
(副管内 φ150)



副管の更生後
(副管口 250-150)



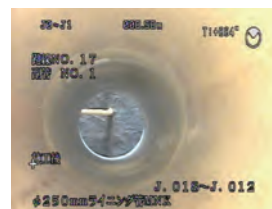
副管の更生後
(副管内 φ150)



副管への一体型施工
(光硬化)



副管の施工中
(光硬化)



施工後(一体型施工後)
本管/副管の一体化

3 取付管ライニング … 陥没対策の施工実例

状況

主要幹線道路の取付管調査において、空洞箇所が見つかった。

なお、同路線においては、浸入水が海水面に影響を受けるようなところで、硫化水素の発生による腐食が多数みられたため、数年前に本管の更生のみを行った。しかし、最近の調査において、本管更生時には異常が無かったコンクリートパイプ製取付管内の硫化水素による腐食が数多く発見された。

腐食対策で行なった更生工事であったが、取付管の対策をしなかったため、硫化水素が取付管にまわり、管体腐食をおこしたと推測される。

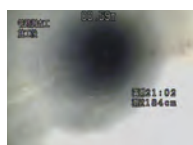
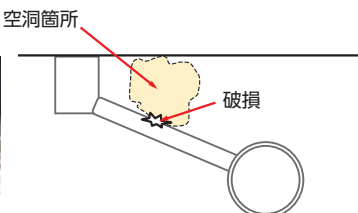
硫化水素対策においては、本管の更生は勿論のこと、取付管ライニング+一体型、場合によってはまず補修までの防食措置が必要と考えられます。

当該箇所においては、交通量も多く、なるべく閉削せずに補修を行いたいとの要望であったので、自立管仕様での更生後、本管部分に一体型を施工して、同路面にφ30程度のコア穴をドリルで開け、無収縮モルタルを注入して空洞部の充填を提案した。

対策施工例



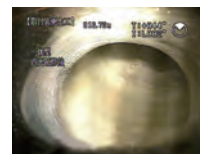
施工前



施工後



取付ライニング施工中



一体型施工後
(本管口部分)



一体型施工後

